新時代の扉を開こう。

-Door to Era-

未来の話をしませんか？

新時代のドアの向こうには

もっとあなたが

みんなが「好き」になれる

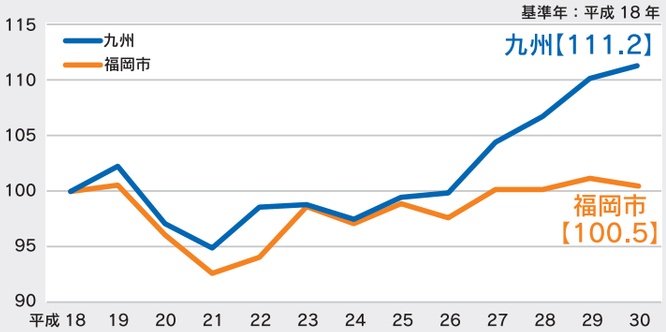
未来（あした）の福岡のまちがあります。

Era: 英語で「時代」の意

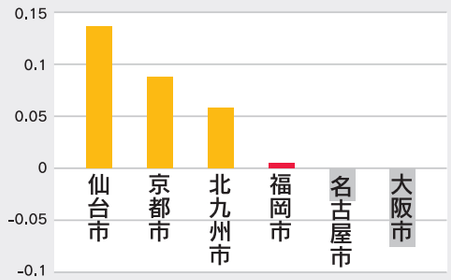
福岡は本当に元気なまちですか？

いまの市政からは「福岡市は元気なまちだ」という発信が繰り返しなされています。確かに人口は増えています。市税収入はコロナ前まで何年も連続で過去最高を更新し続けました。天神ビッグバンなどの都心部開発の号令で真新しい高層ビルへの建て替えが進んでいます。でも、データでみると過去 10 年間、福岡市民一人ひとりの生活は全く豊かになっていません。下の図は「一人あたり市民所得」の推移を示しています。

■ 一人当たり市民所得の推移 ～九州との比較～



■ 一人当たり市民所得の増減率（政令市 6 都市比較）基準年：平成 18 年

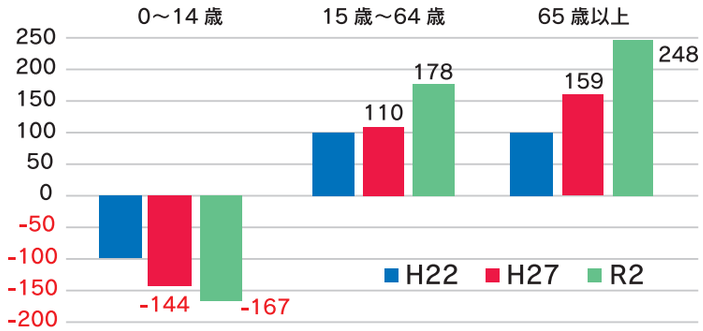


※ 内閣府「県民経済計算（H18 年度～ H30 年度）」掲載の総括表「1 人当たり県民所得」をもとに作成

増えない所得と転出するファミリー層…

平成18年の数値を100としたときに、福岡市を除く九州各県を見ると、一人あたりの市民所得は増加傾向にあります。しかし、福岡市はずっと低迷したままです。では、増え続けている人口を年代別に見てみるとどうでしょうか。下の図は0～14歳、15歳～64歳、65歳以上の3区分で、福岡市に転入する人口と転出していく人口の差を示しています。14歳までの子どもの転出超過が年々大きくなっていることからも分かるように、福岡市では市外に引っ越しをするファミリー層が年々増えています。人口増加を支える最も大きな要素はシニア層の転入超過だということが分かります。こうした人口動態は将来的な社会保障経費の負担の面などで大きな不安要素となることは間違いありません。まずはこうした厳しい現実にしっかりと向き合うことこそが市政転換の第一歩です。

■ 転入・転出超過の伸び指数



※ 国勢調査より

人の元気こそ、まちの元気。すみずみまで行き渡らせたい。

新しいビルやホテルが建ち、国内外から多くの観光・ビジネス客が訪れる。それはまちの元気を語る上で確かに意味のあることです。しかし、そのまちに暮らす人たちが本当に元気なのかどうかが、最も大切なことです。いまの市政には少なからず都心部偏重の空気感が付きまといます。まず改めるのはそこからです。地域の商店街などでは閉じたままのシャッターが目立ったり、ビルが新しく建て替わるたび、櫛の歯が欠けるように 1 階のテナントが姿を消したりしています。いま市政で注目すべきは、「生活圏における都市活力の向上」です。

コロナ禍で観光客は激減しましたが、今、アジア・欧米では、かつてないほどに日本に旅行をしたいという熱気が高まっています。福岡市を訪れる観光客がただ中心部で買い物や食事を楽しむだけではなく、広く市内各地を訪れてこのまちの日常の暮らしを体験できるような「旅」を市政から発信するなど、交流やビジネスの機会をまち全体に浸透させていきましょう。

新時代の福岡市が目指す成長のビジョンは、都心部の成長の果実を市民に分配するトリクルダウンではなく、一人ひとりの生活向上を目指すボトムアップ型の政策展開により描かれます。

天神ビッグバンは誰のため？もっと市民のために。

天神など市中心部ではオフィスの平均空床率が 5 パーセントを超えています。既に供給過多になっている一方で、これからも旧建築基準法に基づいて建てられた既存不適格のビルの建て替えが進み、オフィスが過剰状態に陥る恐れがあります。ビッグバンボーナスで獲得できる容積の余剰については、オフィスに限らず、文化芸術活動の拠点となるホール機能や、人々の交流、学びの場など、市民生活の向上に資する財産としての活用を進めるべきではないでしょうか。人と仕事を呼び込むだけじゃない、うるおいを大切にしたまちづくりへと大きく舵を切りましょう。

みんなでえがく、ふくおかの新時代。

10年後の未来に向け、今すぐに。

生活支援

～サイクルを変えよう～

「都市の成長と生活の質の向上の好循環」というフレーズを、いまの市政は繰り返してきました。ですが、現実には多くの市民が、生活が上向いている実感を持てていません。生活の質の向上に先行して取りかかることによって、このまちの成長を実現していくという、今までとは「逆サイクル」の発想による市政運営へと転換すべきだと考えます。その基本路線となるのが、徹底した生活支援です。

一例を挙げるならば、消費行動が盛んなファミリー層の市内定住の促進。そのために、今よりも積極的な子育て支援施策を実施することによって、10 年後のまちはもっと社会経済の動きが活発で、一人ひとりの暮らしも、よりゆとりを感じられるものになるでしょう。

所得の低い層から中間層にかけて、家計にできる限り多くの可処分所得を残さなければ。

今すぐ、やります

- 物価高に対応するための公共サービスの値下げ検討
- 就学援助の支給対象の拡大
- 双子など「多胎児」世帯への支援拡充
- 留守家庭子ども会の入会要件の緩和
- 未就学の子ども医療費の完全無償化
- 引っ越し費用の助成拡充をはじめとする子育て世帯の市内定住施策の強化

教育

～徹底的に手厚く～

ウィズコロナ時代の子どもたちは、向かい風の中にあっても、心身ともにたくましく、人生を切りひらいていける力を身につけなければなりません。これまで以上に多様な教育へのサポートが必要です。

いじめや不登校、家庭での虐待、そして貧困の問題など、子どもたちの尊厳や学びの機会を損なう事態にもっと対応できるように、学校に手厚く人員を配置します。

もう一つの柱は、「義務教育の完全無償化」です。家庭の環境に左右されない学びの保障を。また、学校給食を無償化することと並行して、安心・安全な地元産農水産物をもっとたくさん取り入れるなど給食の質の向上にも取り組みます。地元のオーガニック農業の広がりを支援するなど、子どもの健康づくりのみならず、地場生産者の育成につなげていきます。

- 学校給食の無償化を通じた食育と地産地消の推進、地元農水産業の育成
- いじめ、不登校、虐待への学校の対応力強化
- 担任を持たない専科教員の増員
- 放課後を活用した補充学習の実施
- 小中学校の土曜日授業の廃止
- 学校体育館や校舎の木質化・木造化をはじめトイレ改修、バリアフリー化の促進
- 通学路の安全確保

まちづくり

～生活圏こそ「元気」に～

いまの市政は都心のまちづくりには力を入れてきましたが、住居地域を元気にする取り組みは不足しています。都心部に見られる規制緩和の取り組みは、今こそ、それぞれの地域の駅周辺や幹線道路沿いなどへと広げていくべきです。例えば、駅前や地域商店街で付置義務駐車場の規制を緩めれば、新しいビルが建ったときに、1 階部分は駐車場ではなくテナントスペースにできる。上階のマンション部分の間取りも、もっと広く取ることができます。ビジネスの機会や賑わい、そして快適な住環境が自然に広がっていくよう、まちづくりにひと工夫を。

- 道路の無電柱化の促進
- 都心の新しいビルへの憩い空間の確保
- 地域の駅や地域商店街などにおける付置義務駐車場の隔地化のルール作りと実行
- 市街化調整区域における土地活用の柔軟性を高めるための検討
- 都心部をはじめ、みどりの環境づくりの推進
- 天神、博多駅地区での歩行者天国の恒例化

交通

～脱炭素と歩く楽しさ～

一方で、都心の交通渋滞は慢性的な課題です。人流と物流をさらに盛んにするには、車で来なくても快適に移動できる新たな都心の交通手段を確立し、郊外からの路線バスや電車などと効率的に接続するといった、骨太な都市交通計画を早急に打ち出す必要があります。天神～博多駅～ウォーターフロント～市民会館を環境にやさしい「都心循環 LRT」で結ぶとともに、路線バスの折り返し運行やパーク・アンド・ライドを促進するためのインフラ整備に取り組みます。

車を減らした都心部では、歩行者天国を週末ごとに。楽しく快適な歩行空間や、安全な自転車の走行空間の確保も同時進行で。都心のみどりの保存育成、都市インフラを再生可能エネルギー由来へと転換していくことも大事な視点です。

- 次世代自動車用の充電スポット整備をはじめ再生可能エネルギーへの転換の促進
- 福岡市交通基本計画の大幅な見直しへの着手
- 都心循環 LRT（次世代型路面電車）の導入実現に向けた産学官民による検討会議の発足
- 自動運転バスの導入とカーシェアなどシェアリングモビリティの配備エリア拡大
- 誰にでもやさしい歩行空間の整備推進と、安全・快適な自転車走行空間の確保

成長

～打って出る、呼び込む～

いまの市政が大きく宣伝をしてきた創業支援の取り組みは雇用や税収の面でもさほど大きな成果をあげていません。常に新たなビジネスが生まれたり、進出してくることは大切ですが、これまで頑張ってきた中小事業者、働いてきた人たちのモチベーションや生産性を高める取り組みが後回しにされてはいなかったでしょうか?

我が国の人口減少は深刻なペースで進んでおり、活路をアジア諸国など海外に求めたい中小事業者に対して、EC(電子商取引)導入などデジタル活用を支援したり、市の職員がともに汗をかいて、商品を売り込む新たな枠組みを構築する必要があります。一方で、経済のパイの大きさを維持する視点では、観光客をはじめとする交流人口を増やす努力がますます大事になります。このまちの一番の魅力であり、観光資源でもある「食」を「文化」の一つの領域として真剣に磨きましょう。非日常ではなく、日常を旅する楽しみを提案する、敷居の低い観光のスタイルを提案していきます。

しごと

～「働きたい」を大切に～

福岡市の人口構造は、近年は特に高齢者の層が厚くなり、さらには女性の割合が全ての年代で高いという特徴があります。働くことを基本とする経済の循環と成長を視野に入れたとき、シニア世代や女性の活躍が他都市にも増して重要です。年齢や性別、さらには様々なハンディを気にすることなく、みんながいつまでもいきいきと働けるまちの姿を示すために、産学官民の英知を結集します。

コロナ禍は働き方に大きな変化をもたらしました。都心の公共スペースで Wi-Fi を使えるようにして、色んな場所が「あおぞらオフィス」へと様変わりしていきます。

一方で、感染症の爆発的な流行に備えた対応能力の向上も、大きな課題として浮上しました。重要な役割を担う博多区の福岡市民病院の機能更新・移転をはじめ、厚みのある医療体制の確保を目指します。いわゆるエッセンシャルワーカーの働く環境も大事に。

安心・安全

～身近なところも機能的に～

車を手放しても買い物や通院に困らない交通手段の確保、心ふれあうコミュニティの維持や防災力の向上など、地域における様々な備えが欠かせなくなっています。

最も身近な地域拠点施設である公民館を中心に、地域コミュニティの強化をはかると同時に、高齢者がスマホや IT 技術を気軽に習得できたり、簡単な行政手続きを済ませられる窓口機能を新たに設けるなど、公民館の機能強化を進めましょう。大型の集合住宅が新築される場合には介護や宅配サービスなどが利用しやすくなるよう、公的な駐車スペースの確保を制度化すべきです。

自然災害が激甚化する近年は、災害に強いインフラづくりに加えて、電気や水道などのライフラインの災害対応も重要課題になっています。
災害に強いまちづくり、災害に強い地域づくりを強力に推進します。

こころ・平和・人権

～豊かさとあたたかさを～

一人ひとりの個性を大切にしながら、それでもみんなの心を一つにして取り組みたいこと…。
それは今日よりも希望を持てる明日を次の世代へつないでいくことです。

持続可能な社会を確立するために、日々の暮らしにもっとエコな技術と発想を。食品ロスを徹底して削減し、資源としての有効活用を。地球温暖化への対策は、これまでの市政をはるかに超えた積極的なチャレンジを進めましょう。

コロナ禍で打撃を受けたスポーツや文化活動、芸術や伝統技能の継承支援は、欠かせません。歴史ある文化財、鴻臚館や福岡城跡の遺構などは再評価や必要な整備を加えて、観光資源や市民の学びの場として有効に活用します。

目指すのは全ての人権が尊重され、包み込むような優しさとあたたかさに満ちあふれたまち。

– 新時代のドアはあなたの共感で必ず開きます。

今すぐ、やります

- 福岡市独自の「キャッシュレス決済」機能の構築
- 中小企業の域外への新規販路開拓や EC サイトなどデジタル技術活用への支援
- 博多港、福岡空港を活かした物流機能の強化
- 専門家も含めた食の研究会議を発足
- 都心部の Wi-Fi 環境の改善や、主要駅周辺部へのサービス拡充などによる「あおぞらオフィス」の創造

- ジェンダー平等の推進と、女性管理職の登用を職場の男女比などを参考に制度化
- 働きたいシニア世代を徹底応援
- 保育士の確保に向けた非正規保育士の処遇改善
- 介護現場へのロボット導入を加速し、介護従事者の負担を軽減
- 障がい者が生計を立てられる就労支援
- 外国人労働者の就労環境改善

- オンデマンド交通の導入エリアの拡大
- 単身高齢者の住まいの確保と買い物支援の拡充
- 窓口機能の設置も含めた公民館の機能強化と地域拠点化
- 氾濫しない河川、壊れない橋梁への改修
- 電気、ガス、水道などライフラインの防災力強化
- コミュニティスポットとしての身近な公園の整備や活用
- 大型集合住宅への公的駐車スペース設置を制度化

- 家庭へのエコ技術導入などに対しポイントを付与するなどのインセンティブ制度の導入
- 食品ロスの徹底した削減と資源としての有効活用
- 鴻臚館や福岡城跡の整備促進
- スポーツや文化芸術活動などに対する支援の強化
- あらゆる差別をなくし多様性を認め合うまちづくり
- 福岡市を非核平和宣言都市に

わたしたちが実現する未来（ふくおか）

たくさんの子どもたちの
笑顔があふれるまち

いつも新しい発見がある
にぎわいのまち

一人ひとりの
小さな希望が叶うまち

世界中の人と
暮らしと心がふれあうまち

生きづらさ・息苦しさの
ないまち

田中しんすけ プロフィール

- 1978 年 6 月 14 日生まれ（44 歳）
- 1991 年 西高宮小学校卒業
- 1994 年 西南学院中学校卒業
- 1997 年 筑紫丘高校卒業
- 2001 年 九州大学法学部卒業
- 2004 年 早稲田大学大学院修了
- 2004 年 アクセンチュア（株）入社
- 2007 年 福岡市議会議員初当選（連続 4 期）
- 2022 年 9 月　福岡市議会議員　辞職

新たなチャレンジへ！

新時代通信
October 2022　vol.2

変える、つくる、ともに。
行こう！ふくおか新時代

福岡の新時代をつくる会
〒812-0044
福岡市博多区千代 4-29-51 河野ビル 2F
TEL:092-643-7715　FAX:092-643-7717